検討事項３

情報科の各科目の目標・内容の改善について

【論点】　高等学校情報科の「情報と情報技術を問題の発見と解決に活用するための科学的な考え方等を育成する共通必履修科目」（以下「情報Ⅰ（仮称）」）及び「発展的な内容の選択科目」（以下「情報Ⅱ（仮称）」）のそれぞれにおいて、どのような資質・能力をはぐくむべきか。

情報Ⅰ（仮称）及び情報Ⅱ（仮称）において育む資質・能力（たたき台案）

【情報Ⅰ（仮称）】

項目	資質・能力	学習活動（課題設定）の例
（１）情報社会の問題解決	中学校までに経験した問題解決の手法を振り返り、これを情報社会の問題の発見と解決に適用する。その際、情報化が社会に果たす役割と影響、情報社会において個人が果たすべき役割、情報モラルなどについて考える。 ※(2)～(5)の導入として位置づける	Q：現在の情報社会にはどのような問題があるか、その解決も含めて根拠をあげて考えてみよう。その際、問題解決の基本的方法に沿って問題の発見・解決と評価を行うとともに、問題点の指摘に当たっては、統計的手法を用いるなどする。
（２）コミュニケーションと情報デザイン	問題の発見・解決のために情報デザインに配慮した的確なコミュニケーションの力を育む。その際、メディアの特性と利用、ユーザビリティやアクセシビリティ、情報化によるコミュニケーションの変化などについて考える。	Q：学校や部活動を紹介する Web ページを作ることを通して、見やすく、使いやすく、内容が的確に伝わる Web ページとはどのようなものかを考えてみよう。
（３）コンピュータとプログラミング	問題の発見・解決のためにプログラミングによりコンピュータを活用する力を育む。その際、コンピュータ内部での情報の表し方、コンピュータで情報が処理される仕組みなどを知り、プログラミングの有用性や情報技術による社会の発展について考える。	Q：ワープロソフトや表計算ソフトの内部ではどのようなプログラムが働き情報が処理されているのか、同じ働きをするプログラムの作成を通して考えてみよう。
（４）モデル化とシミュレーションの考え方	問題の発見・解決のためにモデル化やシミュレーションの手法や考え方を用いる力を育む。	Q：文化祭の模擬店における売上が最大になるよう、事象をモデル化し、シミュレーションを通して考えてみよう。（※関係する変数が少なく、その関係を数式で表すことができる問題を扱う）
（５）情報通信ネットワークとデータの利用	問題の発見・解決のために情報通信ネットワークを用いてデータを活用する力を育む。その際、情報通信ネットワークのしくみ、データベースによる情報の共有と管理、クラウドコンピューティング、情報セキュリティなどについて知り、情報社会の安全や情報モラルについて考える。	Q：修学旅行の行き先などについてのアンケートを Web サイトに設置して実施してみよう。

【情報Ⅱ（仮称）】

項目	資質・能力	学習活動（課題設定）の例
（１）情報社会の進展とそれを支える情報技術	情報社会の進展と情報技術との関係について歴史的に捉え、AI等の技術も含め将来を展望する。 ※(2)～(5)の導入として位置づける	Q：情報技術の進展によって、情報社会やコミュニケーションの方法はどのように変わってきたのか、また今後どのような技術が現れどのように変わっていくかを考えてみよう。
（２）コミュニケーションと情報コンテンツ	問題の発見・解決のために、画像や音、動画を含む情報コンテンツを用いた豊かなコミュニケーションの力を育む。その際、情報コンテンツの特性と扱い、処理と表現の方法、データの圧縮と展開、ヴァーチャルリアリティ、著作権や引用の仕方などについて知り、目的に応じた情報コンテンツの選択や組合せについて考える。	Q：学校紹介などの具体的な目的に沿って、画像、音声、動画、アニメーションなどを含む Web ページやプレゼンテーション資料を作成してみよう。
（３）情報とデータサイエンス	問題の発見・解決のためにデータサイエンスの手法を活用して情報を精査する力を育む。その際、様々なデータの特性と扱い、処理や表現の方法、統計的手法、ビッグデータの分析などをについて知り、目的に応じた情報の処理と表現を行う。	Q：コンビニの弁当の販売計画はどのように立てられているのかを考え、立案してみよう。（※関係する変数が多く、数式で表すことが難しく､考慮すべきデータも多い問題を扱う）
（４）情報システムとプログラミング	問題の発見・解決のために情報システムを活用するためのプログラミングの力を育む。その際、複数の情報機器や IoT が協調して動作するシステムと、それを動かすプログラム、暗号化などシステムがセキュリティを保つための方法について知り、目的に応じたシステムについて構想する。	Q：一人暮らしの高齢者の状況を遠く離れた子供のスマートフォンに届けるシステムを作ってみよう。
（５）課題研究	生徒が選択した課題を解決する過程を通して、情報Ⅰ及び情報Ⅱの(1)～(4)での学習を総合し深化させ、新たな価値を創造する。	

検討事項４

情報科の指導における障害のある生徒への配慮について

（総則・評価特別部会（第３回）提出資料より抜粋）

【「合理的配慮」の定義】

○ 障害のある子供が、他の子供と平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために、

- 学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うこと
- 障害のある子供に対し、その状況に応じて、学校教育を受ける場合に個別に必要とされるもの
- 学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において均衡を失した又は過度の負担を課さないもの

障害者差別解消法（平成 28 年４月１日施行）により、
国公立学校など　⇒　行政機関等　⇒　法的義務
学校法人など　　⇒　事業者　　⇒　努力義務

【改訂の方向性】

○ 総則に加え、各教科等別に示す（解説）。

○ 学習の過程で考えられる困難さごとに示す。

＜困難さの例＞

《情報入力》
見えにくい
聞こえにくい
触れられない　など

《情報のイメージ化》
体験が不足
語彙が少ない　など

《情報統合》
色（・形・大きさ）の区別が困難
聞いたことを記憶することが困難
位置、時間を把握することが困難　など

《情報処理》
短期記憶※１、継次処理※２や同時処理が困難
※１　一度見たり聞いたりして短い時間の間憶えること
※２　一つ一つ順々に問題を処理していくこと
注意をコントロールできない　など

《表出・表現》
話すこと、書くことが困難
表情や動作が困難　など

○ 学習の過程で考えられる「困難さの状態」に対する「配慮の意図」＋「手立て」の例を示す。

【論点】高等学校情報科の指導において、障害のある生徒に対してどのような配慮が必要と考えられるか。

高等学校情報科における障害のある生徒に対する配慮の例（案）

「困難さの状態」に対する「配慮の意図」＋「手立て」

○　コンピュータの画面が見えにくい場合には、情報を的確に取得できるよう、生徒の見え方に応じて、拡大したり、フォントを変更したり、文字と背景の色やコントラストを調整したりするなどの配慮をする。

○　コンピュータ等の発する音が聞こえにくい場合には、情報を的確に取得できるよう、音の代わりに光や振動、画面上の表示で伝えたり、スピーカーを適切な位置に設置したりするなどの配慮をする。

○　キーボードによる文字入力やマウス操作等の動作に困難がある場合には、コンピュータ等の操作が可能となるよう、ジョイスティックその他の代替の入力手段を使えるようにするなどの配慮をする。

○　コンピュータの画面上の文字を目で追って読むことに困難がある場合には、どこを読んでいるのかが分かるよう、データの形式等に応じて可能なかたちで、読んでいる箇所をハイライト表示や反転表示するなどの配慮をする。

※　このほか、学習の過程で考えられる困難さ（《情報のイメージ化》、《情報統合》、《情報処理》）に対する配慮については、専門家等の知見も交えて検討していく必要がある。

平成２７年１１月２３日
教育課程部会
体育・保健体育、健康、安全ＷＧ
資料7

体育・保健体育、健康、安全 WG における検討事項（案）

１．体育・保健体育を通じて育成すべき資質・能力について
・体育・保健体育を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
ⅰ）何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
ⅱ）知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
ⅲ）どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた体育・保健体育において育成すべき資質・能力の系統性について
・体育・保健体育において育成すべき資質・能力と指導内容との関係について
・オリンピック・パラリンピック大会を契機として育成すべき資質・能力、

２．アクティブ・ラーニングの三つの視点（※）を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき体育・保健体育の指導等の改善充実の在り方について

３．資質・能力の育成のために重視すべき体育・保健体育の評価の在り方について

４．必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

５．健康・安全における資質・能力等について

※アクティブ・ラーニングの三つの視点（教育課程企画特別部会「論点整理」１８ページ参照）
ⅰ）習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか
ⅱ）他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか
ⅲ）子供たちが見通しを持って粘り強く取組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

健やかな体の育成に関する教育のイメージ（たたき台）

体育科・保健体育科

平成２７年１１月２３日
教育課程部会
体育・保健体育、健康、安全WG
資料1

発達の段階

指定校事業での検証、全国体力・運動能力、運動習慣等調査

改善のためのPDCAサイクル

改善のためのPDCAサイクル

改善のためのPDCAサイクル

卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続することができるようにする

【高等学校】

生涯にわたる豊かなスポーツライフを継続する資質・能力を養うとともに、健康な社会づくりに参画する態度を育てる。

○「する、みる、支える」などの多様なスポーツとの関わり方に関する指導を充実する。
○体育で学習したことを実生活や実社会で生かし，運動の習慣化につなげる指導を充実する。
○中学校からの接続を踏まえ、体力や技能の違いを超えてスポーツを楽しめるよう、男女共習やアダプテッド・スポーツの体験の機会を充実する。
○主体的に運動に取り組めるよう、協同的な学びや課題解決的な学びをさらに充実する。
○健康課題や情報を批判的に捉え、課題解決を目指して論理的に考え、意志決定・行動選択する力を育てる。
○自他の健康の保持増進や回復のための健康な社会づくりを目指して、健康的な環境づくりに参画する活動の充実。

個人及び社会生活の健康について より総合的に理解する

多くの領域の学習を経験する

【中学校】

生涯にわたって運動に親しむ資質・能力を養うとともに、健康の保持増進のための実践力を育成する。

○小学校からの接続を踏まえ、競争や達成、課題解決、創造、協力などのスポーツを通した多様な楽しさを味わえるよう、全ての領域の体験のさせ方を充実する。
○体力や技能の違いを超えてスポーツを楽しめるよう、男女共習やアダプテッド・スポーツの体験の機会を充実する
○3年次では、自主的に運動に取り組めるよう、協同的な学びや課題解決的な学びをより充実する。
○健康課題を把握し、適切な情報を選択、活用し、課題解決のために自己判断や意志決定する力を育てる。
○自他の健康の保持増進や回復のためにコミュニケーションを図ったり、主張したりする活動の充実。

個人の健康について より科学的に理解する

各種の運動の基礎を培う

【小学校】

○基礎的な身体能力や知識を身に付け、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。
○運動の楽しさや喜びを味わい、児童の運動への関心や意欲を高めるとともに、仲間と仲よく運動したり、運動の課題を主体的に解決したりする力を養うなど、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる。
○身近な健康課題に関心を持ち、健康を保持増進するための情報を活用し、課題解決するとともに、自己の健康に関する取組を肯定的に捉える態度を育てる。

身近な生活の健康について理解する

【幼児教育】（教育課程部会幼児教育部会において、本部会での議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議）

○体を動かす様々な活動に目標をもって挑戦したり、困難なことにつまずいても気持ちを切り替えて乗り越えようとしたりして、主体的に取り組む。
○いろいろな遊びの場面に応じて、体の諸部位を十分に動かす。
○健康な生活リズムを通して、自分の健康に対する関心や安全についての構えを身に付け、自分の体を大切にする気持ちを持つ。

【たたき台】資質・能力の三つの柱に沿った、小・中・高を通じて育成すべき資質・能力の整理イメージ（体育科・保健体育科）Ver. 4

平成28年2月10日
体育・保健体育、健康、安全WG
資料4

小学校 体育	**個別の知識や技能** （何を知っているか、何ができるか）	**思考力・判断力・表現力等** 教科等の本質に根ざした見方や考え方等 （知っていること・できることをどう使うか）	**学びに向かう力、人間性等** 情意、態度等に関わるもの （どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか）
運動領域	各種の運動が有する特性や魅力に応じた技能や知識 ・各種の運動を行うための技能 ・各種の運動の行い方についての基本的な知識	自己の能力に適した課題をもち、活動を選んだり工夫したりする思考力・判断力・表現力等 ・自己の能力に適した課題に気付く力 ・自己の課題を解決するための活動を選んだり、運動の行い方を工夫したりする力 ・思考し判断したことを、言葉や動作等で他者に伝える力	運動の楽しさや喜びを味わい、明るく楽しい生活を営むための態度 ・進んで学習活動に取り組む ・約束を守り、公正に行動する ・友達と協力して活動する ・自分の役割を果たそうとする ・安全に気を配る
保健領域	身近な生活における健康・安全についての基礎的な知識や技能 ・健康な生活、発育・発達、心の健康、けがの防止、病気の予防に関する基礎的な知識 ・不安や悩みの対処やけがの手当に関する基礎的な技能	身近な健康課題に気付き、健康を保持増進するために情報を活用し、課題解決する力 ・身近な健康課題に気付く力 ・健康課題に関する情報を集める力 ・健康課題の解決方法を予想し考える力 ・学んだことを自己の生活に生かす力 ・学んだことや健康に関する自分の考えを伝える力	健康の大切さを認識し、健康で楽しく明るい生活を営む態度 ・自己の健康に関心をもつ ・自己の健康の保持増進のために協力して活動する ・自他の心身の発育・発達などを肯定的に捉える

【たたき台】資質・能力の三つの柱に沿った、小・中・高を通じて育成すべき資質・能力の整理イメージ（体育科・保健体育科）Ver. 4

中学校 保健体育	**個別の知識や技能** （何を知っているか、何ができるか）	**思考力・判断力・表現力等** 教科等の本質に根ざした見方や考え方等 （知っていること・できることをどう使うか）	**学びに向かう力、人間性等** 情意、態度等に関わるもの （どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか）
体育分野	運動の特性に応じた行い方や運動の一般原則などの知識 ・技能の名称や行い方の知識 ・運動の特性や成り立ちの知識 ・体力の要素や高め方の知識 ・運動観察の方法の知識 ・伝統的な考え方の知識　　など スポーツに関する科学的知識や文化的意義等の概要 小学校段階の学習を踏まえ、各種の運動が有する特性や魅力に応じた技能 ・知識を踏まえて、基本的な運動の技能として発揮したり、身体表現したりする	自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できる思考力・判断力・表現力 ・自己の課題に応じた運動の行い方の改善すべきポイントを見付ける力 ・運動実践の場面で、自己の課題に応じて，適切な練習方法を選ぶ力 ・運動実践の場面で、健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な活動を選ぶ力 ・状況に応じた自己や仲間の役割を見付ける力 ・作戦などの話し合いの場面で、合意を形成するための適切なかかわり方を見付ける力 ・運動を継続して楽しむための自己に適したかかわり方を見付ける力 ・思考・判断したことを、根拠を示しながら相手に伝える力　　など	生涯にわたって運動やスポーツに親しむとともに、明るく豊かな生活を営む態度 ・自主的に学習活動に取り組む ・運動における競争や協同の場面を通して、多様性を認識し、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲を持つ ・相手を尊重し伝統的な行動の仕方を大切にしようとする ・運動実践の場面で、健康・安全を確保する など
保健分野	個人生活における健康・安全についての科学的な知識や技能 ・現代的な健康課題を踏まえた心身の機能の発達と心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防に関する知識 ・ストレス対処、応急手当に関する基礎的な技能	健康課題を把握し、適切な情報を選択、活用し、課題解決のために適切な意思決定をする力 ・自他の健康課題を発見する力 ・健康情報を収集し、批判的に吟味する力 ・健康情報や知識を活用して多様な解決方法を考える力 ・多様な解決方法の中から、適切な方法を選択・決定し、自他の生活に生かす力 ・自他の健康の考えや解決策を対象に応じて表現する力	健康の保持増進のための実践力を育成し、明るく豊かな生活を営む態度 ・自他の健康に関心をもつ ・自他の健康に関する取組のよさを認める ・自他の健康の保持増進や回復のために協力して活動する ・自他の健康の保持増進に主体的に取り組む

【たたき台】資質・能力の三つの柱に沿った、小・中・高を通じて育成すべき資質・能力の整理イメージ（体育科・保健体育科）Ver. 4

高等学校 保健体育	個別の知識や技能 （何を知っているか、何ができるか）	思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方等 （知っていること・できることをどう使うか）	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの （どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか）
科目体育	運動の特性に応じた行い方や運動の一般原則などの知識 ・技能の名称や行い方の知識 ・体力の高め方の知識 ・課題解決の方法の知識 ・伝統的な考え方の知識　　など ・競技会、発表会の仕方や審判の方法等の知識 スポーツに関する科学的知識や文化的意義等 各種の運動が有する特性や魅力に応じた技能 ・知識を踏まえて、運動の技能として発揮したり、身体表現したりする	自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取組み方を工夫できる思考力・判断力・表現力 ・自己や仲間の挑戦する運動課題を設定する力 ・技術的な課題や有効な練習方法について指摘する力 ・運動実践の場面で、課題解決の過程を踏まえて，自己や仲間の課題を見直す力 ・運動実践の場面で、自己や仲間の危険を予測し回避するための活動の仕方を選ぶ力 ・状況に応じた自己や仲間の役割を設定する力 ・作戦などの話し合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付ける力 ・運動やスポーツを生涯にわたって楽しむための自己に適したかかわり方を見付ける力 ・思考・判断したことを、根拠を示し示したり、他者に配慮したりして相手に伝える力　など	生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、明るく豊かで活力ある生活を営む態度 ・運動の楽しさや喜びを深く味わい、主体的に取り組む態度 ・運動の合理的、計画的な実践を通して、多様性を尊重し、公正に取り組む、仲間と主体的にかかわり協力する、役割に責任をもって取り組む、意思決定などに参画するなどの意欲を持つ ・相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする ・運動実践の場面で、健康・安全を確保する など
科目保健	個人及び社会生活における健康・安全についての総合的な知識や技能 ・現代社会に生じた健康課題の解決に役立つ知識、健康な生活と疾病の予防に関する知識 ・ライフステージにおける健康を踏まえた生涯を通じる健康の知識 ・社会生活と健康に関する知識 ・社会資源の活用、応急手当に関する技能	健康課題の解決を目指して、情報を批判的に捉えたり、論理的に考えたりして、適切に意思決定・行動選択する力 ・社会生活に関わる健康課題を発見する力 ・社会生活に関わる健康情報を収集、分析する力 ・社会背景や置かれている状況に応じて解決方法を考える力 ・解決方法を活用し、健康な社会づくりを目指して適切に意思決定・行動選択する力 ・健康な社会づくりに必要な知識や技能、健康の考えや解決策を社会へ伝える力	健康の保持増進のための実践力を育成し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度 ・社会生活に関わる健康づくりに関心をもつ ・社会生活において健康・安全を優先する ・健康の保持増進や回復のための社会づくりに参画する

体育科・保健体育科における学習過程のイメージ（体育）

平成28年1月20日
体育・保健体育、健康、安全WG
資料2－2

※論点整理補足資料（p192）に示された学習プロセスと対応

学びのプロセス例

※動機付け→	方向付け→	内化→		外化→	批評→	統制→
易しい運動から取り組む	自己の思いや願い、体力や技能に応じて、目標をもつ	目標に向けた運動課題とその解決方法を知る	自己やチームの能力に応じて課題を選び、課題解決のための活動を決める	決めた運動に取り組む	振り返る	次の課題に向けて取り組む

多様な授業の展開

学習の広がりや深まり
主体的・協働的な学び

思考力・判断力・表現力

―135―

思いや願い						
楽しい やってみたい 勝ちたい もっとうまくなりたい もっと知りたい どうしたらできるか など	運動の行い方を理解する	自己やチームの能力に応じて課題を見付ける	課題の解決に向け、運動の行い方を工夫する	課題の達成度やその理由等について考える	自己やチームの能力に応じた運動の楽しみ方に気付く	
	特性に応じた運動の楽しさや喜びに気付く	自己やチームの課題解決のための活動を選ぶ				
	運動課題とその解決方法を仲間と共有する		仲間とともに、課題の解決をする			自己やチームの能力に応じた新たな目標や課題を他者に伝える
	特性に応じた運動の楽しさや喜びを仲間に伝える	課題の解決に向けて思考し判断したことを言葉や動作等で他者に伝える				

学びに向かう力

積極的・自主的・主体的に運動に取り組む　自己の責任を果たす　話合いに参加する
仲間と協力して準備や片付けをする　互いのよさを認め合おうとする　多様性に気付く（認識する、尊重する）
粘り強く取り組む
勝敗などを素直に受け止める　ルールやマナーを大切にする

運動を安全に行う　自己や仲間の健康・安全を確保する

体育科・保健体育科における学習過程のイメージ（保健）

※なお、課題解決の課程は、必ずしも一方向の流れではない。また、授業では学びのプロセスの一部を扱うこともある。

学びのプロセス例

健康課題の発見 → 健康情報の収集、選択 → 課題の解決の見通し → 課題の解決に必要な知識・技能の習得 → 課題の解決、生活の改善 → まとめと振り返り → 次の課題に向けた取組

多様な授業の展開

学習の広がりや深まり
主体的・協働的な学び

思考力・判断力・表現力

自他の健康課題を発見する	健康情報を収集、分析する 適切な健康情報を選択する	課題の解決を予想する	健康情報や習得した知識・技能を活用して多様な解決方法を考える 新たな知識・技能を自他の生活に関連付けたり、適用したりする 多様な解決方法の中から適切な方法を選択・決定し、生活改善に生かす	学習結果を整理し、まとめ、解釈する	新たな課題を創造する

健康課題や健康情報などについて考えたり調べたりしたことを仲間と共有する	課題の解決に向けて思考したり判断したりしたことについて、互いの立場を考え伝え合う	健康に関する考えや必要な提案を効果的な対象に主張する

学びに向かう力

健康の保持増進のための実践力を育成し、明るく豊かな生活を営む態度を育む。
- 自他の健康に関心をもつ
- 自他の健康に対する取組のよさを認める
- 自他の健康の保持増進や回復のために協力して活動する
- 健康・安全を優先し、健康な社会づくりに参画する

体育科・保健体育科におけるアクティブ・ラーニングのイメージについて（体育）

平成28年2月10日
体育・保健体育、健康、安全WG
資料3

基本的な考え方

・特定の型や、方式化された授業の方法や技術ではなく、授業改善の考え方として捉える。
・子供の学びへの積極的関与と深い理解を促すような指導や学習環境を設定することにより、子供たちの自信を育み、必要な資質・能力を身に付けていくことができるようにする。
・具体的な学習プロセスは限りなく存在し得るものであり、教員一人一人が、子供たちの発達の段階や発達の特性、子供の学習スタイルの多様性や教育的ニーズと学習内容、単元の構成や学習の場面等に応じた方法について研究を重ね、ふさわしい方法を選択しながら、工夫して実践できるようにすることが重要。

深い学び

習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた学びの過程の実現

・運動やスポーツの楽しさや喜びを見出すとともに、豊かなかかわり方について考える。
・運動の行い方を理解し、自己の能力に応じた課題を見付ける。
・課題の解決に向けて、習得した知識を活用して運動の行い方を工夫し、運動に取り組む。
・ＩＣＴの活用等により、課題の到達度を確認し、必要な知識を収集するとともに実践する。
・自己やチームの能力に応じた運動の楽しみ方を見付ける。
・知識と技能を関連付けて学習することにより、その重要性を認識し、理解を深める。

対話的な学び

他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げる学びの過程の実現

・運動についての課題と、その解決方法を仲間と共有する。
・課題の解決に向けて、仲間の感情に配慮し、助け合ったり教え合ったりしながら運動に取り組む。
・仲間と認め合い、励まし合いながら運動に取り組み、運動の楽しさや喜びを味わう。
・言語活動の充実やＩＣＴの活用等を通して、仲間の学びを理解するとともに、運動についての自己の課題の解決に生かす。

主体的な学び

見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる学びの過程の実現

・運動の楽しさに気付き、自ら進んで運動に取り組む。
・自己の目標をもち、目標の達成に向けた課題の解決に向け、意欲的に取り組む。
・学習の見通しをもつとともに、自己の課題の解決に向けて粘り強く運動に取り組む。
・ＩＣＴの活用等により、学習を振り返り、課題の修正をしたり新たな課題を設定したりする。
・公正、協力、責任、参画、健康・安全の大切さや意義を理解し、運動の楽しさや喜びを味わう。

体育科・保健体育科におけるアクティブ・ラーニングのイメージについて（保健）

基本的な考え方

・特定の型や、方式化された授業の方法や技術ではなく、授業改善の考え方として捉える。
・子供の学びへの積極的関与と深い理解を促すような指導や学習環境を設定することにより、子供たちの自信を育み、必要な資質・能力を身に付けていくことができるようにする。
・具体的な学習プロセスは限りなく存在し得るものであり、教員一人一人が、子供たちの発達の段階や発達の特性、子供の学習スタイルの多様性や教育的ニーズと学習内容、単元の構成や学習の場面等に応じた方法について研究を重ね、ふさわしい方法を選択しながら、工夫して実践できるようにすることが重要。

深い学び

習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた学びの過程の実現

・健康に関する身近な生活やそれを取り巻く社会環境の状況から、健康課題に気付く。
・ICTを活用し、健康に関する情報を収集、批判的に吟味し、健康課題の解決に役立つ情報を選択する。
・選択した健康情報や習得した知識や技能を活用して、疾病等のリスクを減らしたり、対処法を選択したりするなど健康課題の解決方法を考える。
・健康課題の解決方法を自他の生活と比較したり、関連付けたりし、適切な意思決定・行動選択に役立てる。

対話的な学び

他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げる学びの過程の実現

・健康課題や健康情報を仲間と共有する。
・健康課題の解決に向けて、仲間と教え合ったり相談し合ったりしながら多様な解決方法を考える。
・健康に関する考えや提案を相手の立場を考えて伝え合う。
・健康に関する話し合いを通して、仲間の学びや取組に対するよさを認め、自他の健康の保持増進や回復に生かす。

主体的な学び

見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる学びの過程の実現

・健康に関心をもち、健康課題の解決に向けて意欲的に取り組む。
・学習の見通しをもつとともに、健康の大切さに気付き、健康課題の解決に向けて粘り強く取り組む。
・学習を振り返り、獲得された健康に関する知識・技能や考え方などの成果を確認する。

生活・総合的な学習の時間ワーキンググループにおける検討事項

【生活科について】

1．「生活科」を通じて育成すべき資質・能力について

・育成すべき資質・能力の可視化について

ⅰ）何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）

ⅱ）知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）

ⅲ）どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）

・生活科の内容の構成要素等（学年目標を構成する項目、内容構成の基本的な視点と具体的な視点、内容の構成要素と階層性、学習対象等）と、論点整理で示された育成すべき資質・能力の三つの柱との関係について

・中学年以降の各教科等とのつながりについて

・低学年における他教科等との関連について

2．幼児教育との円滑な接続を図るスタートカリキュラムの中核となる教科としての位置付けについて

・カリキュラム・マネジメントの視点からスタートカリキュラムの在り方について

・幼児教育との接続及び、他教科等との連携の在り方について

・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と生活科において育成する資質・能力との関連性について

【総合的な学習の時間について】

1．「総合的な学習の時間」を通じて育成すべき資質・能力の明確化について

・各教科等の学習を踏まえた上で、総合的な学習の時間を通じて育成すべき資質能力について

・発達の段階に応じた育成すべき資質・能力について

・発達の段階に応じて身に付けるべき学び方やものの考え方の明確化について

2．教育課程全体における「総合的な学習の時間」の意義について

・各教科における学習で身に付けた資質・能力を相互に関連付けた教科横断的な学習を行う時間としての意義

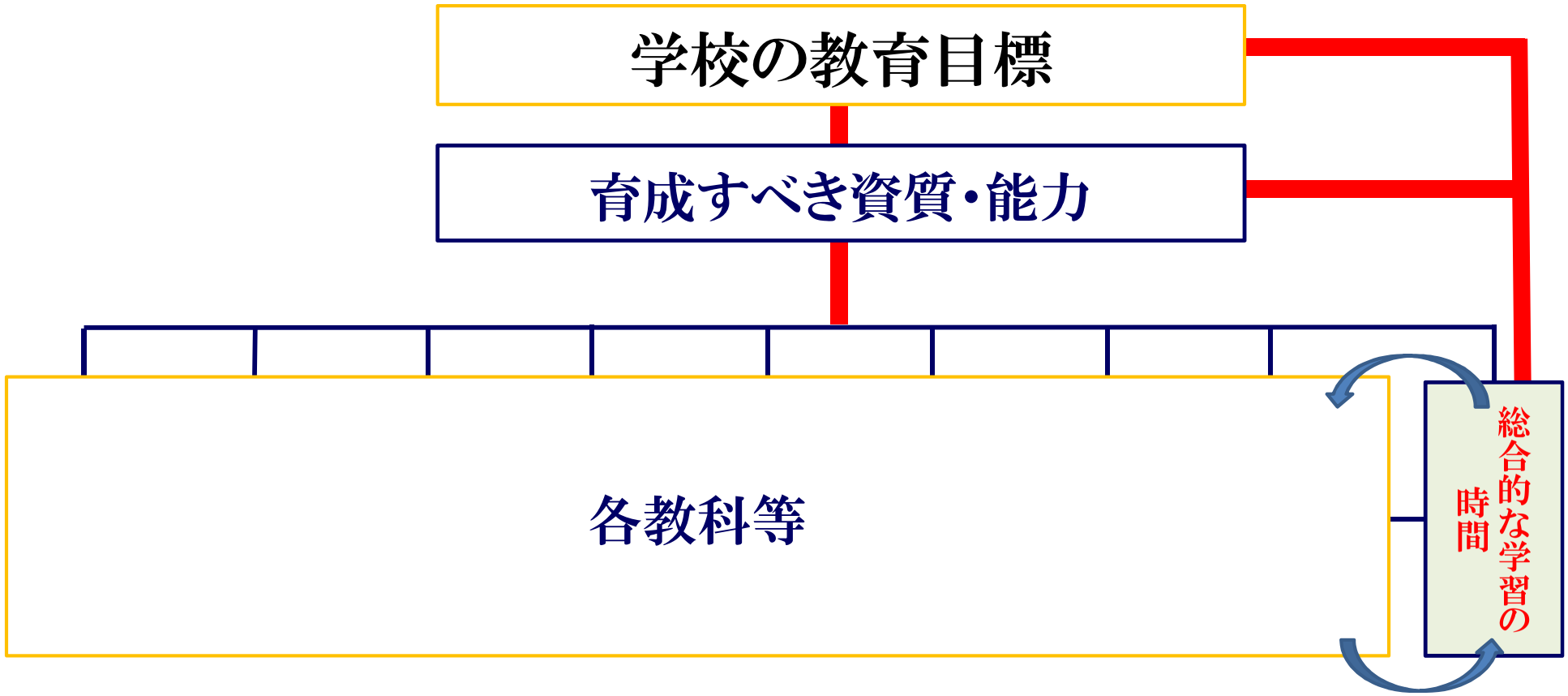
・各教科等単独では取り組むことの難しい現代的な課題の学習を行う時間としての意義

・高等学校教育において、より探究的な学習活動を重視する視点からの「総合的な学習の時間」の在り方について

平成２８年２月２３日
教育課程部会
生活・総合的な学習の時間
ワーキンググループ
資料2

カリキュラム・マネジメントのイメージ

カリキュラム・マネジメントの実現



※ 総合的な学習の時間の目標は、各学校が育てたいと願う児童生徒像や育てようとする資質や能力及び態度などを表現したものになることが求められるため、学校の教育目標と直接的につながる。

【カリキュラム・マネジメントの三つの側面】（教育課程企画特別部会論点整理より）

① 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。

② 教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。

③ 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

探究のプロセスと育成すべき資質・能力・態度の関係（案）

平成２８年２月２３日
教育課程部会
生活・総合的な学習の時間
ワーキンググループ
資料３

	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
学習方法	■複雑な社会状況を踏まえて課題を設定する ■仮説を立て、それに適合した検証方法を明示した計画を立案する	■目的に応じて臨機応変に適切な手段を選択し、情報を収集する ■必要な情報を広い範囲から迅速かつ効果的に収集し、多角的、実際的に分析する	■複雑な問題状況における事実や関係を構造的に把握し、自分の考えを形成する ■視点を定めて多様な情報から帰納的、演繹的に考察する ■事実や事実間の関係を比較したり、複数の因果関係を推理したりして考える	■相手や目的、意図に応じて手際よく論理的に表現する ■学習の仕方や学習や生活に生かそうとする進め方を内省し、現在及び将来の
探究活動と自分自身	■当事者意識と責任感をもって意思決定する ■自分の生活や暮らしとの関わりを意識し検討する ■目標や課題の解決に向けて計画的に着実に取り組む	■当事者意識と責任感をもって意思決定する ■自分の生活や暮らしとの関わりを意識し検討する ■目標や課題の解決に向けて計画的に着実に取り組む	■当事者意識と責任感をもって意思決定する ■自分の生活や暮らしとの関わりを意識し検討する ■目標や課題の解決に向けて計画的に着実に取り組む	■当事者意識と責任感をもって意思決定する ■自分の生活や暮らしとの関わりを意識し検討する ■目標や課題解決に向けて計画的に着実に取り組む ■自己の将来について具体的に考え、夢や希望をもつ ■自らの生活の在り方を見直し、改善に向けて日常的に実践する
探究活動と他者や社会	■互いを認め特徴を生かし合い、協同して課題を解決する ■異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重し理解しようとする ■他者や社会との関わりを意識し検討する	■互いを認め特徴を生かし合い、協同して課題を解決する ■異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重し理解しようとする ■他者や社会との関わりを意識し検討する	■互いを認め特徴を生かし合い、協同して課題を解決する ■異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重し理解しようとする ■他者や社会との関わりを意識し検討する	■互いを認め特徴を生かし合い、協同して課題を解決する ■異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重し理解しようとする ■他者や社会との関わりを意識し検討する ■課題の解決に向けて多様な社会活動に当事者意識をもって参画する

資質・能力の三つの柱に沿った、小・中・高を通じて総合的な学習の時間において育成すべき資質・能力の整理（たたき台）（案）

平成２８年２月２３日
教育課程部会
生活・総合的な学習の時間
ワーキンググループ
資料４

国が定める目標及び各学校の教育目標に基づき各学校において設定

	個別の知識や技能 （何を知っているか、何ができるか）	思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方等 （知っていること・できることをどう使うか）	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの （どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか）
高等学校	○　横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得した知識 ○　横断的・総合的な学習や探究的な学習をとおして獲得した技能 ○　学ぶことの意義や価値の理解	○　課題解決の力 ・課題設定、収集分析、思考判断 表現省察 ○　目標を明確にし、当事者意識と責任感をもって意思決定する力 ○　異なる意見や他者の考えを受け入れ、協同して課題を解決する力	○　実社会、実生活における答えが一つではない課題に向き合い、よりよい解決に向け主体的、協同的に行動しようとする情意や態度 ○　学習の仕方や進め方を内省し、現在及び将来の学習や生活に生かそうとする態度 ○　課題の解決に向けて多様な社会活動に当事者意識をもって参画しようとする態度
中学校	○　横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得した知識 ○　横断的・総合的な学習や探究的な学習をとおして獲得した技能	○　課題解決の力 ・課題設定、収集分析、思考判断 表現省察 ○　目標を明確にし、責任をもって意思決定する力 ○　異なる意見や他者の考えを受け入れ、協同して課題を解決する力	○　実社会、実生活における答えが一つではない課題に対して、よりよい解決に向け主体的、協同的に解決しようとする情意や態度 ○　学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとする態度 ○　課題の解決に向けて社会活動に参画しょうとする態度
小学校	○　横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得した知識 ○　横断的・総合的な学習や探究的な学習をとおして獲得した技能	○　課題解決の力 ・課題設定、収集分析、思考判断 表現省察 ○　目標を設定し意思決定する力 ○　異なる意見や他者の考えを受け入れ、協同して課題を解決する力	○　実社会、実生活における課題に、主体的、協同的に関わろうとする態度 ○　学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとする態度 ○　課題の解決に向けて地域の活動に参画しようとする態度

教育課程全体におけるアクティブ・ラーニングの視点を支える

特別活動ワーキンググループにおける検討事項

１．特別活動を通じて育成すべき資質・能力について

・特別活動を学ぶ本質的な意義や他教科等との関連性について

・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について

ⅰ）何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）

ⅱ）知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）

ⅲ）どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）

・小学校、中学校、高等学校における特別活動で育成すべき資質・能力の系統性について

・特別活動における学級・ホームルーム活動、児童・生徒会活動、クラブ活動、学校行事と、育成すべき資質・能力との関係について

・特別活動で育成すべき資質・能力と、社会の要請（防災や社会参画など）に応じた活動内容との関係について

２．アクティブ・ラーニングの三つの視点（※）を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき特別活動の指導等の改善・充実の在り方について

３．「社会に開かれた教育課程」を実現していく上での特別活動の意義や役割について

４．スタートカリキュラムなど、学校種間の円滑な移行を図る上での特別活動の意義や役割について

５．小学校、中学校、高等学校の連続性を踏まえた評価の在り方について

６．必要な支援（特別支援教育の観点を含む）や条件整備等について

※アクティブ・ラーニングの三つの視点（企画特別部会「論点整理」１８ページ参照）

ⅰ）習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。

ⅱ）他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。

ⅲ）子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

特別活動のイメージ（たたき台）

平成２８年１月２０日
教育課程部会
特別活動
ワーキンググループ
資料５

【「望ましい集団活動を通じて」小中高共通の育みたい資質・能力を以下の三つと仮定し整理】
◇人間関係を形成する力
○社会に参画する力
□自己を生かす力

↑ 生活範囲や人間関係の多様性の広がり

【高等学校】多様な他者と協働し、望ましい集団活動を通して・・・

◇他者の価値観や個性を受け入れ、自己も生かしながら、時･場所･場面に応じた適切なコミュニケーションを図ることができるなど、自主的・実践的によりよい人間関係を築くことができる。
○ホームルーム・学校や地域・社会の問題を把握し、合意形成を図り、自己の果たすべき役割を考え、自主的・実践的に責任ある行動をとることができる。
□自己の能力や適性、置かれている環境を受け入れて、主体的に日常の生活や自己の在り方を改善することができる。
□多様な情報を収集・整理し、興味・関心、自己の適性の把握などに基づき、将来を見通して主体的に自己の生き方を選択することができる。

【中学校】多様な他者と協働し、望ましい集団活動を通して・・・

◇自己や他者の個性を理解し、自他が安心して生活できるよう積極的にコミュニケーションを図るなど、自主的・実践的によりよい人間関係を築くことができる。
○学級・学校や地域・社会の問題を見付け、合意形成を図って解決策を決め、自主的・実践的に取り組むことができる。
□自己のよさや個性、置かれている環境を理解し、それを生かしつつ主体的に日常生活を改善することができる。
□情報の収集・整理と、興味・関心、自己の適性の把握などにより、将来を見通して暫定的な自己の生き方を主体的に選択することができる。

【小学校】多様な他者と協働し、望ましい集団活動を通して・・・

◇助け合ったり協力し合ったりして、相手を信頼し支え合い、自主的・実践的によりよい人間関係を築くことができる。
○学級・学校や地域の問題に気付き、解決方法などを話し合って決め、解決のために自己の役割や責任を果たして、自主的・実践的によりよい生活をつくることができる。
□自己の課題に気付いて生活を改善したり、自己のよさを生かして主体的に活動したりすることができる。

【幼児教育】（教育課程部会幼児教育部会において、本ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議）

（自立心）
・生活の流れを予測したり、周りの状況を感じたりして、自分でしなければならないことを自覚して行う。
・自分のことは自分で行い、自分でできないことは教職員や友達の助けを借りて、自分で行う。
・いろいろな活動や遊びにおいて自分の力で最後までやり遂げ、満足感や達成感をもつ。
（協同性）
・いろいろな友達と積極的にかかわり、友達の思いや考えなどを感じながら行動する。
・相手に分かるように伝えたり、相手の気持ちを察して自分の思いの出し方を考えたり、我慢したり、気持ちを切り替えたりしながら、わかり合う。
・クラスの様々な仲間とかかわりを通じて互いのよさをわかり合い、楽しみながら一緒に遊びを進めていく。
・クラスみんなで共通の目的をもって話し合ったり、役割を分担したりして、実現に向けて力を発揮しやり遂げる。

特別活動において育成すべき資質・能力の視点について（案）

平成２８年２月２４日
教育課程部会
特別活動
ワーキンググループ
資料２

育成すべき資質・能力の視点

人間関係形成 ⇔ 社会参画

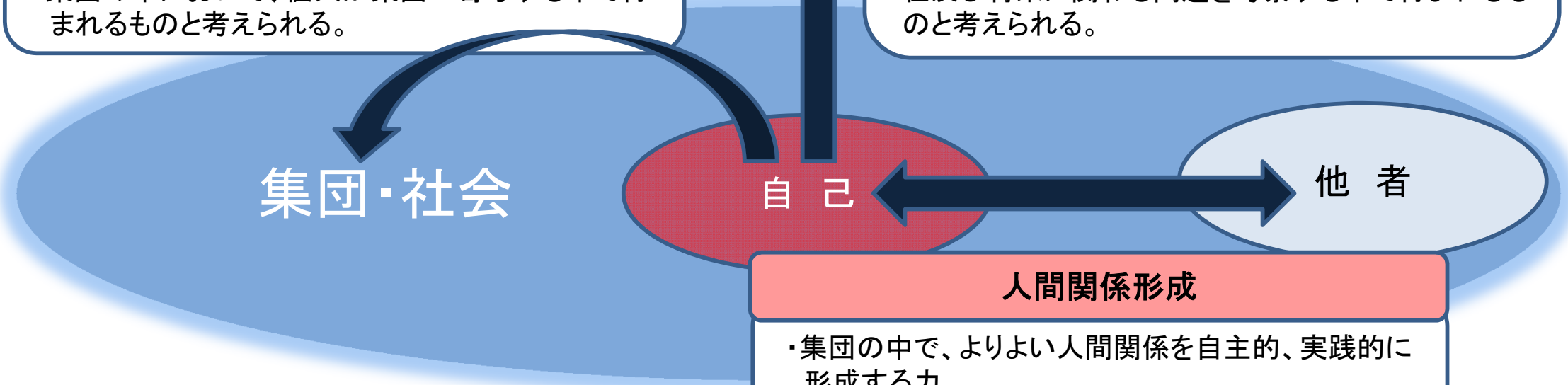
自己実現

社会参画

・よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画する力及び諸問題を解決しようとする力。
・集団の中において、個人が集団へ寄与する中で育まれるものと考えられる。

自己実現

・集団の中で、自己の生活の課題を発見しよりよく改善する力や自己の理解を深め、自己のよさや可能性を生かす力。自己の在り方生き方を考え設計する力。
・集団の中において、個々人が共通して当面する現在及び将来に関わる問題を考察する中で育まれるものと考えられる。



人間関係形成

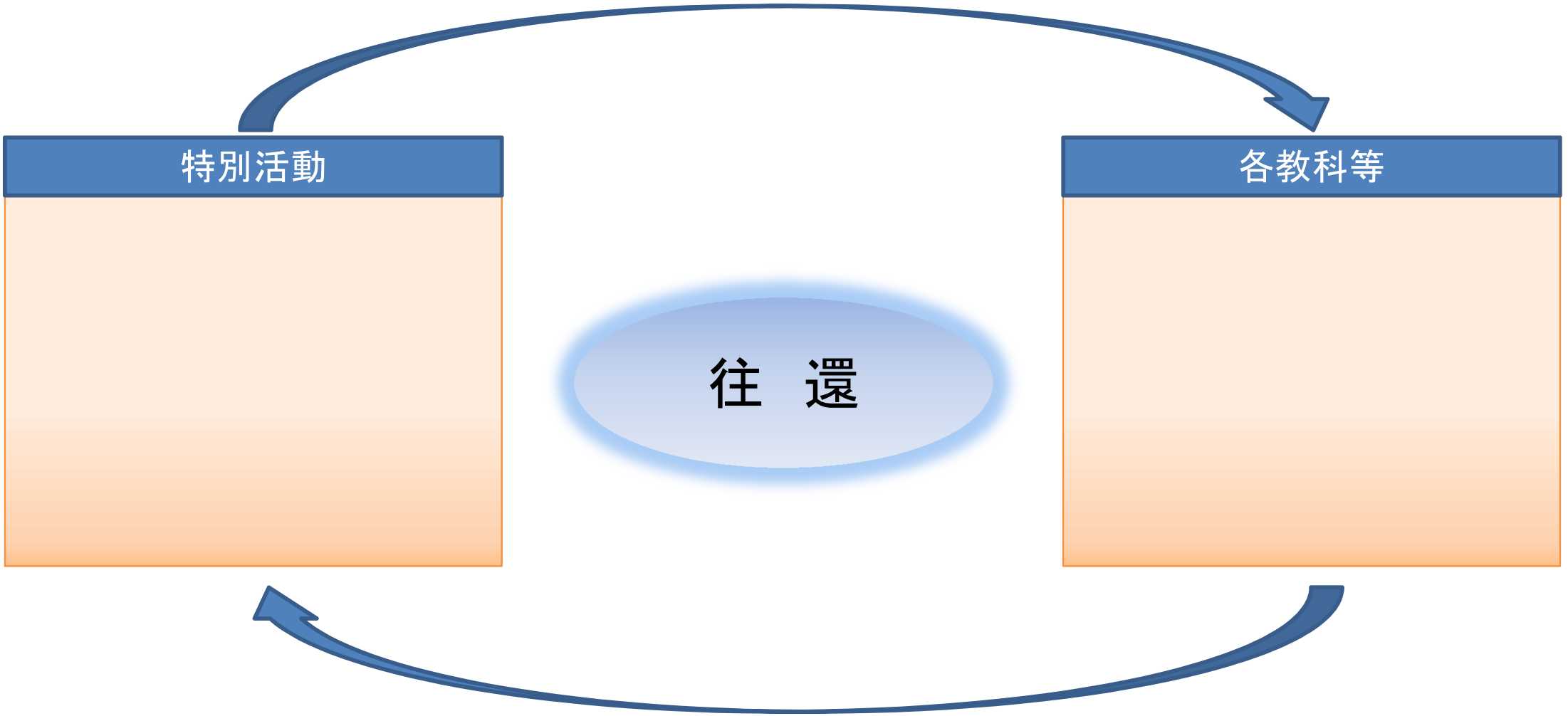
・集団の中で、よりよい人間関係を自主的、実践的に形成する力。
・集団の中において、個人対個人という関係性の中で育まれるものと考えられる。

※発達の段階に応じて、集団や社会の範囲が拡大し、他者が多様化し、扱う問題が高度化する。また、様々な場面において、強い意志や忍耐力、想定外のことに対応する力などが求められることとなる。

特別活動と各教科との往還について（案）

平成２８年２月２４日
教育課程部会
特別活動ワーキンググループ
資料３

【特別活動を通じた学校生活全体の基盤づくり】
- 学校、学級づくり（学校文化、学級文化の形成）
- 人間関係形成能力の育成（コミュニケーションや合意形成など）
- 社会参画や自己実現のために必要な力



【各教科等の学びを生かした特別活動の実践】
- 各教科等で身に付けた資質・能力を特別活動の各活動の中で生かす
- 自己の生活や進路、キャリアに学校での学びをどう生かすのかという振り返りを行う

特別活動における学びのプロセス（イメージ）（案）

平成２８年２月２４日
教育課程部会
特別活動ワーキンググループ
資料４

自主的・実践的な望ましい集団活動を通して行う

①問題の発見・確認

活動内容

学級（ホームルーム）活動：学級や自己の生活の諸問題を、話合い等を通して発見・確認し解決の見通しをもつ。
児童（生徒）会活動：学校における諸問題を、話合い等を通して発見・確認し解決の見通しをもつ。
クラブ活動：話合い等を通して活動目標や計画、内容の見通しをもつ。
学校行事：話合い等を通して行事の目標や計画、内容の見通しをもつ。

資質・能力（例）

○：情報の収集・整理などを通し、学級や学校、地域・社会の課題を発見する力
□：自己の課題に気づく力、自己の適性を把握する力
□：目標を設定する力

②解決方法の話合い

それぞれの活動において、問題の具体的な解決方法や目標実現のプロセス、活動の具体的内容や役割分担などについて話し合う。

○：集団活動における自己の役割やその意義についての理解
○：協働して問題を解決しようとする態度
□：生活を改善したり、将来を見通して自己の生き方を選択したりできる力

◇：よりよい人間関係を育むための思考力・判断力・表現力など

③解決方法の決定

それぞれの活動において、話合い活動で具体化された解決方法等の中から合意形成を図り集団決定したり、自己決定したりする。

④決めたことの実践

それぞれの活動において決定した集団や自己の行動について責任をもって実践する。

○：合意形成を図る力、責任ある行動をとることができる力
○：課題解決に向かおうとする情意や態度
○：よりよい生活をつくろうとする態度
□：日常の生活を改善する力、自己の在り方を改善することができる力、意志決定する力

⑤振り返り

それぞれの活動において実践を定期的に振り返り、意識化を図るとともに、実践の継続や新たな課題の発見につなげる。

○：希望や目標をもって現在の生活を改善しようとする態度
○：よりよい生活をつくろうとする態度
□：学級や学校の中で自分のよさや可能性を生かそうとする態度
□：自己を生かせる生き方や職業を主体的に選択しようとする態度

次の課題解決へ

産業教育ワーキンググループにおける検討事項

１．職業に関する各教科を通じて育成すべき資質・能力について

・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について

ⅰ）何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）

ⅱ）知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）

ⅲ）どのように社会・世界とかかわり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）

・職業に関する各教科において育成すべき資質・能力と指導内容との関係について

・職業に関する各教科の科目構成について

２．これまでの実験・実習などの実践的、体験的な学習活動の成果やアクティブ・ラーニングの三つの視点を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき指導等の改善充実の在り方について

（三つの視点）

ⅰ）習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。

ⅱ）他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。

ⅲ）子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

３．国家資格や各種検定、研究発表会や競技会等の活用を含めた、資質・能力の育成のために重視すべき評価の在り方について

４．必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

※　なお、検討を進めるにあたっては、専門分野ごとに求められる資質・能力を産業界や関係団体等との間で共有化しながら、以下の事項にも留意する。

①職業人として求められる専門的な知識及び技術の高度化や、職業の多様化への対応
②社会的責任を担う職業人としての規範意識や倫理観等の醸成、豊かな人間性の涵養
③地域や産業界との連携・交流を通じた、地域の産業や社会を担う人材の育成

産業教育のイメージ（案）

平成２８年２月１日
教育課程部会
産業教育WG資料６

（高等学校専攻科）
※高等学校若しくはこれに準ずる学校等を卒業した者等に対して、精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的として設置される課程（修業年限１年以上）。

【高等学校】
（産業教育）

① 各職業分野で求められる基礎的・基本的な知識や技術を習得させるとともに、各職業の社会的意義や役割を理解させる。

② 各職業分野に関わる課題（職業能力の専門性の深化、持続可能な社会の構築、グローバル化・少子高齢化等への対応）に対して、職業人としての倫理観をもって、主体的・協働的に取り組み、合理的かつ創造的に解決する能力を育成する。

③ 産業・社会を支える職業人として必要な豊かな人間性、産業の振興や社会に貢献しようとする態度及び社会の変化に対応して学び続ける態度を育成する。

（共通教科）

○ 家庭や個人の生活上等の課題の解決に必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等、態度等の育成。
（家庭科、公民科、情報科、保健体育科　等）

○ 職業において共通に必要とされる知識・技能、思考力・判断力・表現力等、態度等の育成。
（全ての教科）

【義務教育】

○ 家庭や個人の生活上等の課題の解決に必要な基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等、態度等の育成。
（生活科、理科、社会科、家庭科、技術・家庭科、保健体育科　等）

○ 職業において共通に必要とされる基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等、態度等の育成。
（全ての教科）

多様な評価手法―149―

高等学校基礎学力テスト（仮称）

全国学力・学習状況調査

改善のためのPDCAサイクル

改善のためのPDCAサイクル

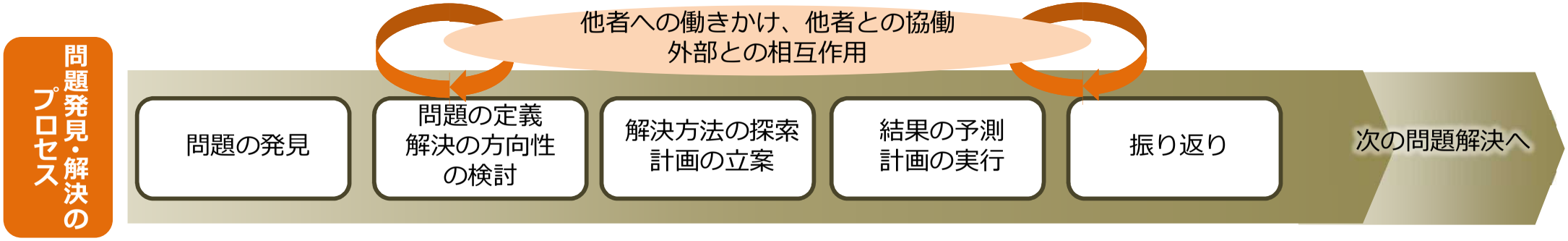
改善のためのPDCAサイクル

資質・能力の三つの柱に沿った、職業に関する専門教科において育成すべき資質・能力の整理（たたき台）

平成２８年２月１日
教育課程部会
産業教育WG資料７

	個別の知識や技能 （何を知っているか、何ができるか）	思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方等 （知っていること・できることをどう使うか）	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの （どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか）
産業教育全体	・各職業分野で求められる基礎的・基本的な知識や技術 ・各職業の社会的意義や役割の理解	・各職業分野に関わる課題に対して、職業人としての倫理観をもって、主体的・協働的に取り組み、合理的かつ創造的に解決する能力	・産業・社会を支える職業人として必要な豊かな人間性 ・産業の振興や社会に貢献しようとする態度 ・社会の変化に対応して学び続ける態度

（＊）身に付けた知識・技術の活用や、探究する際の視点の例（教科等の本質に根ざした見方や考え方等）

・産業・社会の課題について関係する人との対話や、物・事象等の観察により課題を多面的に把握する。
・地域・企業等との連携を深め、協議やシミュレーション、実験・実習等を行い、より良い解決方法を探究する。
・関係する法令等を遵守するとともに、職業人として果たすべき役割や責任を踏まえ、解決策を決定する。
・課題解決の過程においては、科学的原理、経済性、社会資源及び環境への影響等を踏まえ、人々の健康や快適な生活の実現、社会の発展に寄与する生産物や製品、サービスを工夫・創造する。

【参考：教育課程企画特別部会　論点整理（平成27年8月26日）・参考資料（検討中）】